

一般社団法人日本粘土学会 2023 年度第 3 回常務委員会議事録

日 時：令和 5 年 7 月 15 日（土）13:00～14:50

会 場：国際文献社パブリッシングセンター8 階会議室および Zoom 会場

出席者：常務委員（13 名）：川俣 純、日比野俊行、鈴木正哉、蛭名武雄、伊藤健一、小口千明、笹井 亮、佐久間博、手束聡子、中戸晃之、森本和也、横山信吾、地下まゆみ

欠席者（3 名）：亀島欣一、渡邊雄二郎、鈴木憲子

監事（1 名）：高木哲一 欠席者（1 名）：志々目正高

事務局：川島朝子

成立確認：常務委員総数 16 名の過半数 8 名

出席常務委員 13 名で常務委員会の開催は成立

審議事項

1. 2023 年度事業中間報告（資料 1）

資料をもとに各担当委員より報告があった。各学会誌編集委員長より論文投稿の依頼がなされた。また、会員動向について手束庶務委員より会員資格停止者（2 名）と会員資格停止対象（4 名）について説明があった。また、関係者がいる場合は、声かけをして欲しいとの要請があり、提示された（別資料）会費未納者に関して、事務局より本日時点で 30 名となっていることが報告された。

2. 2023 年度会計中間報告（資料 2）

伊藤会計委員より資料をもとにインボイスについて本学会は免除対象となるのでその方向で進めており、海外送金の電子化については銀行のオンラインサービスを用いて海外送金の電子化をしていることが説明された。一般会計（収支報告）、学会誌出版事業、在庫状況（発行後 1 年過ぎたものは 2 冊残すこと）、参考粘土試料、学術振興積立金、貸借対照表、財産目録（三菱 UFJ 銀行は解約し、残り 2 つとする）について報告された。

3. 2024 年度業務委託契約（資料 3）

蛭名常務委員長より資料に基づき説明がなされた。委託内容は例年通りであるが、年月などを変更している。また、契約金額算定基準書（別資料）について、会費請求・会費受付、会員原簿、陪席時間、賞状ホルダーや保管料の変更、メール一斉配信など現状に合わせた変更が報告された。事務局より、第 66 回粘土科学討論会の委員会についてはオンライン参加になることが説明された。

4. 2024 年度事業計画（資料 4）

各委員より資料に基づいて説明があった。蛭名常務委員長より 2024 年度の常務委員会と理事会の日程について、第 67 回粘土科学討論会の開催時期に合わせ日程を調整していることが説明された。川俣会長より 2024 年度第 1 回理事会は第 66 回粘土科学討論会期中に、ハイブリッドで開催することが説明された。

5. 2024 年度予算（資料 5）

伊藤会計委員より資料に基づき、会員減少を踏まえた試算を行い、コロナ前の状態に近い形で計上している予算案について説明があった。

川俣会長より、討論会開催支出の予算について質問がなされ、来年度の予算案は次回の会議に最終審議となるため、今回の意見を踏まえて修正し、次回会議にて最終審議となることが確認された。

6. 2023 年度日本粘土学会学会賞等選考結果（資料 6）

蛭名常務委員長より資料を基に選考委員会から推薦された候補者に対して審議し決定した内容が報告された。

7. 2023 年度日本粘土学会学術振興賞選考結果（資料 7）

蛭名常務委員長より山崎選考委員会委員長からの受賞候補者案が説明された。

8. 2023 年度総会の開催日時と形式について（資料 8）

蛭名常務委員長より、総会・表彰式の開催について説明がなされた。学会はハイブリッドであるが、総会は通信環境により出欠確認に問題が生じる可能性が懸念されるため、会場での開催のみとし、不参加の方や現地に来られない参加者は委任状を提出いただくことが報告された。

9. CMS-Asian Clay 合同会議の現況報告（資料 9）

蛭名常務委員長より現在の決定事項について資料に基づき報告された。また、優秀講演賞の設定について意向調査が行われており、CSSJ の講演賞として Best presentation award for student members of CSSJ を検討していることが説明された。

優秀講演賞の対象者について議論がなされ、学生を含む若手を対象として、young members of CSSJ という形で年齢等の条件（35 歳以上、39 歳以上、学位取得後年数など）を検討し設定することとなった。今後は、佐藤委員と蛭名常務委員長に一任し進めていただくこととなった。

さらに、振興賞との関係についても議論され、振興賞の対象は学生のみとすることが確認された。また人数について、これまでの Asian clay の開催時を参考に、一般の振興賞の枠を 2 名、Asian Clay の枠として 1 名、合計 3 名として次年度は実施することが話し合われた。

10. 第 66 回粘土科学討論会準備状況について

(1) 第 66 回粘土科学討論会（資料 10・11）

蛭名実行委員長より資料を基に現状について説明がなされた。現在の 97 名の参加となっている。今後も参加者は増える見込みである。また、企業展示は 1 件となっている。次回に向けた課題とした振込期限を過ぎた参加登録料の振込については情報共有として説明がなされて検討が行われ、当面は振込期限を過ぎた場合の増額はせずに実施していくこととなった。今後の課題として実行委員長同士で引き継ぎを行い、必要があれば次年度提案いただくなど柔軟に対応していく。

講演要旨公開について、会場の環境を踏まえると、9 月 8 日（金）として事前にウェブにて公開し必要箇所は印刷して持ち込める必要があることが説明され、公開日時について議論した。佐久間委員より特許の公開日に関して意見があり、要旨の公開は 9 月 8 日（金）とすることになった。また、見学場所についての変更点が資料をもとに説明された。

(2) 第 66 回粘土科学討論会シンポジウム（資料 12）

蛭名実行委員長より資料のとおり説明された。

(3) 見学会について (資料13)

蛭名実行委員長より見学会について説明が行われた。高木監事より熱中症対策の必要性が示され、参加者へ持ち物(水分)や服装について丁寧に連絡することが確認された。

以上、審議の上、承認された。

以下については時間の関係で、理事会で審議・報告することになった。

ここからは理事会にて議論させていただくこととする。

11. 参考粘土試料にかかる論文のページチャージなどについて (資料14)
12. 2024年度日本粘土学会常務委員会・理事会開催日程について (資料15)
13. その他

以下報告事項についても、理事会での報告とすることとなった。

報告事項

1. 収支健全化WG答申に対する粘土科学編集委員会の検討状況について (資料16)
2. その他

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

令和5年7月28日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長 蛭名武雄 ⑩

監 事 志々目 正高 ⑩

監 事 高木哲一 ⑩